

授業科目	運動器系の解剖学				
担当者	田中 稔 (実務経験者)				
実務経験者の概要	理学療法士として、臨床現場において解剖学的知識に基づき、評価・治療に従事していた。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体部位の形態と構造を理解することにより、身体運動を理解する基礎を学ぶ。田中 稔 (実務経験者)

■ 到達目標

理学療法においては、加齢や寝たきり等による運動機能低下の予防、維持が主要目的となるが、骨格や筋などの運動器官の解剖学的知識の習得は目的の達成のために極めて重要となる。講義内容では、細胞と組織、骨格系、関節靭帯系、筋系の形態を機能と関連付けすることで理解を深めていく。また、組織学的な知見を示すことで、解剖学分野の科学的な関心へとつなげていく。

■ 授業計画

- 第1回 解剖学総論：人体の大要・構成
- 第2回 骨学各論：上肢の骨
- 第3回 上肢の関節と靭帯
- 第4回 筋学各論：上肢帯、上腕の筋
- 第5回 筋学各論：前腕、手の筋
- 第6回 骨学各論：下肢の骨
- 第7回 下肢の関節と靭帯
- 第8回 筋学各論：下肢帯の筋
- 第9回 筋学各論：大腿の筋
- 第10回 筋学各論：下腿、足の筋
- 第11回 骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭
- 第12回 頭頸部、体幹の関節と靭帯
- 第13回 筋学各論：頭頸部の筋
- 第14回 筋学各論：胸腹部の筋
- 第15回 筋学各論：背部の筋

■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 80%】 小テスト 20%

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業開始時に知識の確認テストを実施する。そのため、事前に前回授業の復習をしておくこと。

■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学

著者名：編集：野村 巖

出版社：医学書院

書 名：基礎運動学 第6版

著者名：中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

■ 留意事項

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 講義受講にあたって

全ての基礎になる学習領域である。運動学、評価学等の先の講義につながるように知識の積み重ねを意識して講義に臨むこと。